

R&I ファンド大賞 2018 において最多受賞運用会社

「投資信託 20 年」「投資信託 10 年」部門での最優秀ファンド賞 3 本を含む、
合計 18 の賞を受賞

アセットマネジメントOne株式会社（東京都千代田区、取締役社長 菅野暁）は4月23日、株式会社格付投資情報センター（R&I）が選定する「R&Iファンド大賞2018」を受賞しました。

投資信託／総合部門の国内株式総合カテゴリーで優秀賞に輝きました。このほか個別運用商品に関しては、投資信託20年部門ならびに投資信託10年部門の国内資産の長期運用における「ハイブリッド・セレクトーション」や「マネックス・日本成長株ファンド」、「DIAM新興市場日本株ファンド」、「DLIBJ公社債オープン（中期コース）」（3年連続受賞）に対する賞などを含む17の賞を受けました。なお、トータルで18の賞に輝いたアセットマネジメントOneが最多受賞運用会社となりました。

投資信託／総合部門

| カテゴリー | 賞 |
|--------|-----|
| 国内株式総合 | 優秀賞 |

投資信託20年部門

| カテゴリー | 賞 | ファンド名称 | ファンド愛称 |
|-------|----------|-----------------|--------|
| 国内株式 | 最優秀ファンド賞 | ハイブリッド・セレクトーション | |

投資信託10年部門

| カテゴリー | 賞 | ファンド名称 | ファンド愛称 |
|---------|----------|---------------------|--------------|
| 国内株式 | 優秀ファンド賞 | マネックス・日本成長株ファンド | ザ・ファンド@マネックス |
| 国内中小型株式 | 最優秀ファンド賞 | DIAM新興市場日本株ファンド | |
| 国内債券 | 最優秀ファンド賞 | DLIBJ公社債オープン（中期コース） | |

投資信託部門

| カテゴリー | 賞 | ファンド名称 | ファンド愛称 |
|------------------------|----------|--|----------------|
| 国内株式 | 最優秀ファンド賞 | マネックス・日本成長株ファンド | ザ・ファンド@マネックス |
| 国内株式 | 優秀ファンド賞 | MHAM日本成長株オープン | |
| 国内中小型株式 | 優秀ファンド賞 | MHAM新興成長株オープン | J-フロンティア |
| 医療・バイオ関連外国株式 | 最優秀ファンド賞 | メディカル・サイエンス・ファンド | 医療の未来 |
| 外国債券円ヘッジ | 優秀ファンド賞 | ハイブリッド証券ファンド円コース | |
| オーストラリア・ ニュージーランド債券 | 優秀ファンド賞 | みずほ豪ドル債券ファンド（年1回決算型） みずほ豪ドル債券ファンド MHAM豪ドル債券ファンド（毎月決算型） | コアラの森 コアラの森 |
| エマージング債券マルチリー ジョナル | 最優秀ファンド賞 | フロンティア・ワールド・インカム・ファンド | |
| 米国ハイールド債券 | 最優秀ファンド賞 | 米国ハイールド債券ファンド 米ドルコース | |
| 米国ハイールド債券 | 優秀ファンド賞 | みずほUSハイールドオープンBコース（為替ヘッジなし） | |
| グローバルREIT | 優秀ファンド賞 | DIAMワールド・リート・インカム・オープン（毎月決算コース） | 世界家主倶楽部 |
| 北米REIT | 優秀ファンド賞 | 新光 US-REIT オープン | ゼウス |

iDeCo・DC部門

| カテゴリー | 賞 | ファンド名称 | ファンド愛称 |
|-------|----------|---------------------|--------|
| 国内株式 | 最優秀ファンド賞 | MHAM日本成長株ファンド<DC年金> | |

NISA部門

| カテゴリー | 賞 | ファンド名称 | ファンド愛称 |
|-------|----------|-----------------|--------------|
| 国内株式 | 最優秀ファンド賞 | マネックス・日本成長株ファンド | ザ・ファンド@マネックス |

アセットマネジメントOneでは、本受賞を励みに、投資家の資産形成に資する商品・サービスの提供と運用成績の向上に引き続き努めてまいります。

以上

※当該評価は、過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

【「R&Iファンド大賞2018」について】

「R & I ファンド大賞」は、R & I が信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報（ただし、その正確性及び完全性につきR & I が保証するものではありません）の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR & I に帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

「投資信託部門」、「iDeCo・DC部門」、「確定給付年金部門」では2016、2017、2018年それぞれの3月末時点における1年間の運用実績データを用いた定量評価がいずれも上位75%に入っているファンドに関して、2018年3月末における3年間の定量評価によるランキングに基づいて表彰している。「NISA部門」では「NISAスクリーニング」の2018年版（2月8日に公表）の基準を満たしたファンドに関して、2018年3月末における3年間の定量評価によるランキングに基づいて表彰している。「投資信託10年部門」では、2013、2018年それぞれの3月末における5年間の運用実績データを用いた定量評価および2018年3月末時点における3年間の運用実績データを用いた定量評価がいずれも上位75%に入っているファンドに関して、2018年3月末における10年間の定量評価によるランキングに基づいて表彰している。「投資信託20年部門」では、2008、2018年それぞれの3月末における10年間の運用実績データを用いた定量評価および2018年3月末時点における3年間の運用実績データを用いた定量評価がいずれも上位75%に入っているファンドに関して、2018年3月末における20年間の定量評価によるランキングに基づいて表彰している。定量評価は、「投資信託部門」、「iDeCo・DC部門」、「NISA部門」、「投資信託10年部門」、「投資信託20年部門」では"シャープ・レシオ"を採用、「確定給付年金部門」では定量評価に"インフォメーション・レシオ"を採用している。表彰対象は償還予定日まで1年以上の期間を有し、「投資信託部門」、「投資信託10年部門」、「投資信託20年部門」では残高が30億円以上かつカテゴリー内で上位50%以上、「NISA部門」では残高が30億円以上、「iDeCo・DC部門」では残高が10億円以上かつカテゴリー内で上位75%以上の条件を満たすファンドとしている。なお、「投資信託部門」、「iDeCo・DC部門」、「NISA部門」、「投資信託10年部門」、「投資信託20年部門」では上位1ファンドを「最優秀ファンド賞」、次位2ファンド程度を「優秀ファンド賞」として表彰している。「確定給付年金部門」では受賞区分を設けていない。「投資信託／総合部門」では、2018年3月末において残高30億円以上のファンドを3本以上設定する運用会社を表彰対象とし、各ファンドの3年間ににおける"シャープ・レシオ"の残高加重平均値によるランキングに基づき、上位1社を「最優秀賞」、次位2社を「優秀賞」として表彰している。「投資信託部門」、「投資信託／総合部門」、「投資信託10年部門」および「投資信託20年部門」は確定拠出年金専用ファンドを除く国内籍公募追加型株式投信、「iDeCo・DC部門」はiDeCo・DC（個人型および企業型確定拠出年金）向けに利用される国内籍公募追加型株

式投信、「NISA部門」はNISA（少額投資非課税制度）向けに利用される国内籍公募追加型株式投信、「確定給付年金部門」は『R&Iユニバースデータサービス』に登録されている運用商品を対象にしており、いずれも基本的にR&Iによる分類をベースとしている。

【投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項】

【投資信託に係るリスクと費用】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

●投資信託に係る費用について [ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

■ その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となる場合があります。

【ご注意事項】

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

●当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当資料における内容は作成時点（2018年4月23日）のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

●投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

【アセットマネジメント One について】

アセットマネジメントOne株式会社は、DIAMアセットマネジメント株式会社、みずほ信託銀行株式会社の資産運用部門、みずほ投信投資顧問株式会社及び新光投信株式会社（以下、総称して「統合4社」）が統合し、2016年10月1日に発足した資産運用会社です。「投資顧問事業」と「投資信託事業」の双方の事業領域における運用資産残高は約58兆円とアジアトップクラスの規模を誇ります。

統合4社が長年にわたって培ってきた資産運用に係わる英知を結集し、資産運用のプロフェッショナルとして、グローバル運用リサーチ体制に支えられた伝統的資産のアクティブ運用や金融工学を駆使した最先端の運用戦略等、個人投資家や機関投資家の多様な運用ニーズに対し、最高水準のソリューションの提供をめざします。

HP : <http://www.am-one.co.jp/>

※運用資産残高は2017年12月末時点。

商号等 / アセットマネジメントOne株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号

加入協会 / 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会